



北広島島の歩みを伝える歌シリーズ③

ひろしま賛歌

〜ひろしまわが愛〜



町民など約4,000人が参加した記念式典



北広島に開拓の鋏が入り、100年目に当たる昭和59年。8月4日に「ひろしま100年記念式典」が、中央公民館隣の東公園で盛大に開かれました。その時に、100年を記念して作られた「ひろしま賛歌」ひろしま わが愛」が披露されました。市史によると、広葉中学校と北広島高校の吹奏楽部による演奏に合わせ、町内の合唱団と会場が一体となって歌い上げたそうです。

号」のエンディングテーマなど多くの曲を手掛けた越部信義さんです。作詞をしたのは市内在住の作詞家・竹林顯さん。歌詞の1番には「原始の森にくわをとり あれ野をひらき水おさめ 稲穂育てたちちははの汗に花さく北のさと ああひろしま百年 たたえるところかようまち」とあります。開拓を進めた先人の苦労をしのび、明るい未来を目指そうという気持ちが入められています。

「歌詞は公募で選ばれました。式典では作詞者として紹介され、晴れがましい思いでした。合唱を聞いた時も、うれしかったですね」と竹林さん。現在も愛着を持って、自身の主催するイベントで賛歌を発表しているそうです。

昭和59年当時、市内の小学校に通っていた女性は「学校の校内放送でよく流れていて、歌詞も覚えていました。懐かしいです」と振り返ります。100年の喜びを伝える賛歌は、今も多くの方の胸に残っています。

まめ記者

あいさが広がる西部小学校



西部小学校6年 佐藤颯さん (児童会長)

西部小学校では、全校児童278人が、毎日明るく元気に過ごしています。

児童会では、あいさが広がる取り組みを行っています。朝のあいさつ運動では、ただあいさつをするだけでなく、ハイタッチをしています。ハイタッチをすることで、友達の輪を広げられるようにしています。他にも、学級ごとにあいさつをした数を数えてシールを貼っていく「あいさつ玉入れ」という活動も行いました。

体育委員会が行う長縄大会では、各学級で目標を立てて、優勝を目指しました。そして、みんなで協力して頑張りに、友達との絆を深めました。

今後も、仲よく楽しく明るく、友達の輪がもつともつと広がるような活動をしていきたいと思っています。



長縄大会の様子